

日本デイケア学会理事長に再任されて

日本デイケア学会理事長 窪田 彰

平成23年9月の日本デイケア学会名古屋年次大会の新理事会において理事長に選出されたことは、大変責任の重いことと考えております。3年前に、柏木昭前理事長の後を引き継ぎ、浅野弘毅副理事長・松永宏子副理事長そして小野寺敦志事務局長と共に、この3年間の役目を何とか果たすことが出来たことを感謝申し上げます。前期の課題は、財政赤字でした。このままでは数年後には破綻かと心配し財政の改善に努め、おかげさまで前年度から健全会計に復帰いたしました。年次大会は、地域特性を生かした充実した会が各地で開催されました。

今期再び理事長を拝命し、デイケアの実践において様々な課題があることを痛感しております。この度は、浅野先生に代わり原敬造先生が副理事長をお引き受け下さいました。私たちは、デイケアの治療的意義を社会に伝えていくことと共に、デイケア活動の治療技術の発展を求めて行かなければなりません。この様な課題の中で、中心的役割を果たすのが年次大会と、学会誌です。本年の年次大会は福岡市に、来年の大会は松本市を予定しています。また、

学会誌編集委員長は浅野弘毅先生より西村良二先生に引き継がれることになりました。これまでのご労苦に感謝申し上げます。これに加えて、今期は調査研究委員会を充実しなくてはなりません。今後のデイケアの充実には、デイケアの有用性を行政の方々が納得出来るように説明出来る論理を持たなければなりません。どのようなデイケア・ナイトケアが、どのように役立っているのかを、数字のデータで示さなければならぬのです。

当学会は、精神科デイケアと高齢者デイケアを主たる対象としております。時代とともに、対象疾患も活動の持ち方も多様化しております。私たちは地域ケアの諸活動と連携しながら、地域で暮らす患者の自立を支援していかなければなりません。今後はより多くの会員を募り、お互いの議論をまき起こし、皆様とともに充実した日本デイケア学会を作りたいと願っております。

会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

2012年1月 吉日

日本デイケア学会第16回年次大会を終えて

医療法人福智会 すずかけクリニック 福智寿彦

昨年11月に当大会の運営・実行委員の解散式も行い、皆様のご協力の元で大きな役割を終えることができましたことをご報告いたしますとともに、改めまして厚く感謝申し上げます。過ぎ去りし日々を懐かしく思う今日この頃です。

<名古屋大会の成果>

今回の大会は、「なぜ私が大会長?」と考えることから始まりました。学会理事でもない私にできることは何かと自分に問い続けました。しかし、答えは簡単でした。立場のな

い私にできることは、「新しい風をデイケアに吹き込むこと。」ぐらいです。その風こそが「リカバリー」です。当大会では、一般市民も含め約1000名の皆さんに「リカバリー」という言葉を届けられたことが一つの成果と考えています。しかし、リカバリーに答えはなく、「〇〇はこうすべき」と言った途端にそれはリカバリーでは無くなります。リカバリーとは「自分の人生自分で決めていこう。」という概念であり方法ではないのです。それぞれの現場で今一度考えて頂け

ますと幸いです。

<今後のデイケアのあり方>

精神科デイケアへの風当たりは周知の通り強くなっています。これまでに十分な費用対効果を示すことができなかったことがその一因です。しかし、その評価は困難を極めます。病状の重い方を多く受け入れている施設の効果が低くなるのは当然ですが、その機能は否定できないのです。そこで、評価対象を「当事者から施設(スタッフ)」へ切り替え、どの程度「リハビリが浸透している施設なのか。」を基準とした評価の必要性を考えています。リハビリにおいて病状の重さは関係ありません。今後、日本デイケア学会とも協力して進めていく予定です。皆さんの施設への調査依頼の際には、ご協力をお願いします。

<イノベーション>

私もデイケアの経営者であり、デイケアは大好きです。先述の評価のように、存続の方法を色々考えました。しかし、

私たちが守ろうとしているものを、社会や当事者は本当に求めているのでしょうか。私たちの使命は「当事者のリハビリ」です。その支援が可能な施設であれば、これまでの「デイケア」に固執する必要はないのではないのでしょうか。社会的入院患者の受け入れ、生活困難者の増加と、今後、社会も当事者も大きく変化してきます。我々だけが、そしてデイケアだけが変わらないのは不自然なのかもしれません。つまり、現状維持に費やすエネルギーを、新たな支援の模索に費やすべきなのかもしれません。その結果が、当事者に役立つものであり、経営的にも成り立つのであれば、医療でなくとも、「デイケア」でなくとも良いのかもしれません。

最後になりましたが、私にとっての本大会の最大の成果は全国の皆さんに頂いたご縁です。名古屋大会は終わりましたが、今後とも、このご縁を温め精神医療・福祉の発展に努めていきたいと思えます。

デイケア 西から東から、北から南から…

デイケア学会に参加して

当院は、北海道札幌市の中心部に位置する精神科単科のデイケアを主体としているクリニックです。開院当初より、就労支援に力を入れており、精神障害のある方がより働きやすい場を提供することを目的に、平成22年より就労継続支援A型事業所を立ち上げました。現在、私は就労支援の担当として日々の業務をおこなっています。今回の大会では、当院でおこなっている活動についても発表する機会をいただき、私にとっても非常に印象に残る大会でした。

そして、この一年は東日本大震災という私たちにとって忘れられない大きな出来事があり、改めて自分にできることを考えさせられる年となりました。そんな中、今大会では『リハビリ』というテーマを基に、多分野におけるたくさんの貴重なお話を聞くことができましたと感じています。

一日目の東日本大震災特別報告では、原先生と道又先生より、被災地での活動について大変貴重な報告を伺いました。ニュースやメディアでは得られなかった現状や過酷な状況を教えて頂きました。そんな中で、先生方が被災者の

藤井 望(精神保健福祉士)

方々の大きな支えになっていること、被災者同士が「こんな時だからこそ調子を崩してられない。」と頑張っているというお話を伺い、胸を打たれる思いでした。そして、人間関係の再構築に向けて、新たにセルフケアを高める支援が必要であるということを知り、これからの支援活動の手掛かりを得ることができました。

他の発表では、被災地の保健所が主体となっておこなっているデイケアや、他の地域のデイケア活動についても興味深いお話を聞くことができました。

そして、今回は演題発表を通して、就労支援の一事例におけるチーム支援の取り組みについて報告させていただきました。私にとって、このような大きな大会で発表するのは初めてのことだったので、当日はどうしてもない程の緊張に襲われ、汗が止まらなかったのを覚えています。発表では、緊張のあまり思うように言葉を伝えきれなかったり、様々な反省点もありましたが、発表後にはたくさんの方から声をかけていただき、私たちの活動に耳を傾けてくださったことに

とても感動しました。また、普段はなかなか聞くことの出来ない地域間の活動の違いや逆に共通点を見つけたりと、たくさんの発見をすることができました。全国的にみると、北海道の就労支援はまだまだ地域に浸透していないのが現状

ですが、今後の業務をおこなっていく上で、たくさんのヒントをいただけたと思います。今後も、今回の経験を日々の業務に生かしていきたいです。

(医療法人社団 デイケアクリニックほっとステーション)

デイケア学会に初参加して～台風を乗り越えて～

高田 絵理子(看護師)

かねてから日本デイケア学会に参加したいと思い、今年度から会員となり、学会に参加するはこびとなりました。日本デイケア学会に初参加するにあたり、印象に残る経験をしましたので、ご報告させていただきます。

まず、学会開催の直前に大型の台風が名古屋を襲い、テレビでは名古屋市に避難勧告が出され、私の周囲では「本当に学会ができるの」と心配する声もありました。台風の影響で私の住む青森から名古屋に向かう飛行機、JRが全線ストップしてしまい、唯一夜行バスが東京まで走っている状況でした。予約をすべてキャンセルし、夜行バスに急ぎ乗り、ようやく東京に着きました。東京駅では大幅なダイヤの乱れで、新幹線の指定席は満席のため、立って行くこととしました。弘前から16時間かけて着いた名古屋では、台風一過の雲ひとつない快晴でした。

学会では、“リカバリー”というキーワードを中心に興味深く参加させていただきました。特別講演の中で、「サービス提供者は肯定的態度だけでなく、希望を喚起できなけ

ればならない」とありました。さらに、希望を喚起する能力のひとつとして、「将来の成果が定かでないことに耐える」とありました。一方で、デイケアを治療の場とみる時、一定の成果が求められることも事実です。このジレンマと向き合い続け、良い成果を出そうとモチベーションを高めていく必要があるのだと認識しました。また、希望を喚起する能力として「希望を喚起する資源を豊富に持っている」ともありました。今回の学会は、私にとって学び、交流の場であり、“希望を喚起する資源”でもあったように思います。

学会運営のスタッフの皆様におかれましては、台風のため、はらはらしながら開催の時を迎えたこととお察しします。また、私自身、苦勞して行ったかがありました。今回の学会運営のスタッフの皆様には心から敬意を表し、多くの学びをさせていただく機会を与えられたことに心から感謝を申し上げます。

(弘前医療福祉大学)

ち ょ っ と !! ひ と 息

「わが母の記」試写会を鑑賞して

「試写会の案内が届いたけど」と、学会事務局の大参さんに勧められ、マスコミ試写会なるものに生まれて初めて出かけてみた。井上靖の自伝的小説を元に、原田真人の脚本・監督で描く感動作と案内に書かれていた。映画のタイトルは「わが母の記」、なぜこの映画のマスコミ試写会の案内がデイケア学会に送られて来たのかと少し疑問に思ったのだが、「老いて次第に失われていく母の記憶」「たとえ忘れてしまってもきっと愛だけが残る」というフレーズから、認知症関連の映画だろうと勝手に考え、以前デイケアと一緒に仕事をしたことがあり読書好きでもある看護師 T さんを誘って、試写会に出かけた。内容は、認知症関連よりも、家族の愛を確認する心の軌跡が多くを占めていた。ご存じの方も多いと思うが、井上靖は血のつながりのない祖母に育てられた自らの体験を題材にいくつか書いている。自分ひとりだけが両親から離れて育てられたことから、母に捨てられたと思いつけて生きてきた主人公が、老いて失われていく母の記憶にふりまわされながらも、母や妹たちなどとの家族愛を確認し、自分は捨てられた存在ではなかったと安心していく過程が描かれている。中高年になっても、作家として認められる存在になっても、人間は、母親にこだわり、不安定な自己像に悩み続けるのだと、苦しく感じさせられ、精神保健福祉分野での家族関係問題の大変さを改めて考えさせられた。(松永宏子)

「わが母の記」 2012年G.W.ロードショー 松竹

日本デイケア学会 第17回年次大会福岡大会のご案内

大会テーマ

「多様化するデイケアへの期待に応える」

大会長

西村 良二 (福岡大学医学部精神医学教室 教授)

副会長

佐々木 裕光
徳永 雄一郎 (不知火病院 院長)
河野 耕三 (河野医院 院長)

大会URL

<http://www.jpduct17.com>

会期

平成24年 9月20日(木) ~ 9月22日(土)

学術大会 9月20日(木) 21日(金) / 見学会・研修会 9月22日(土)

プログラム

学術大会

日時: 平成24年9月20日(木)・21日(金)

会場: 福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1

TEL.092-262-4111

URL: <http://www.marinemesse.or.jp/congress/>

参加費:

会 員	事前登録	7,000円
	当 日	8,000円
一 般	事前登録	8,000円
	当 日	9,000円
当事者・家族・学生		4,000円
懇親会		3,500円

1. 会長講演

「思春期のデイケアの試み ~神経症圏内の子どもたちを中心に~」

西村 良二 (福岡大学医学部精神医学教室)

2. 特別講演

I) 「精神科デイケアの理念と現実 -大学精神科事始め」

西園 昌久 (心理社会的精神医学研究所)

II) 「スポーツは心の病を救う ~精神障害者フットサルのこれから~」

岡村 武彦 (大阪精神医学研究所 新阿武山病院)

III) 高齢者・認知症デイケア (予定)

3. 教育講演

「若年者のうつ病・うつ状態の理解と対応」

神庭 重信 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学)

「恋愛・結婚・子育てを支援する」

池淵 恵美 (帝京大学医学部精神神経科学教室)

4. シンポジウム

【精神科デイケア】 (予定)

【高齢者デイケア】 (予定)

5. ランチョンセミナー

6. 一般演題

7. 企業/施設展示

8. 懇親会

< 研修会 >

日 時:平成24年9月22日 (土)

< 施設見学会 >

日 時:平成24年9月22日 (土)

※福岡県内の2~3施設を予定しています。

演題募集について

日本デイケア学会第17回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。

演題募集期間: **2012年2月~2012年4月** (予定)

オンラインでの演題登録を予定しています。詳細が決まり次第、今大会のホームページでご案内します。

【募集要項】 募集要項の詳細は大会ホームページ上で公開してまいりますので、ご参照ください。

事前参加登録について

事前参加登録期間: **2012年3月~6月** (予定)

オンラインでの申込みを行います。詳細が決まり次第、今大会のホームページでご案内します。

なお、研修会および施設見学会は事前登録者を優先とさせていただきます。

定員位達した時点で募集を終了しますので予めご了承ください。

お問合せ先

日本デイケア学会第17回年次大会福岡大会 運営事務局

(株)JTBビジネスサポート九州 ICS営業部内

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル 6F

TEL:092-751-3244 FAX:092-751-3250

E-mail: jsdct17@kys.jtb.jp

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 下記入会申込書にご記入の上、FAX か郵送で下記事務局までお送りください。

2. 入会金および年会費

正 会 員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円

団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円(登録者名の変更は適宜可能)

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

振 込 先：郵便振替 名称：日本デイケア学会 口座番号：00170-8-167337

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内

日本デイケア学会事務局

TEL&FAX：03-3813-6368

E-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいは FAX で事務局までお送り下さい。) -----

入会申込書

(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
----	--	----	-----	------	----------	---	---	---

職種		所属先名称 (勤務先)	
----	--	----------------	--

所属先所在地	〒	電話番号	()
--------	---	------	-----

(団体会員用)

団体名		代表者	
-----	--	-----	--

所在地	〒
-----	---

種別	TEL	()	FAX	()
----	-----	-----	-----	-----

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ